

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	学校林保育事業費				
担 当 課 係 名	教育総務 課		管理 係	作成者	小林龍夫
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画の ページ
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備			
	主要施策	学校施設の整備			94
予 算 費 目	一般 会計	10 款 教育費	1 項 教育総務費	2 目	事務局費
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市学校林に関する条例				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市学校林
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	学校教育の理想を達成し、森林資源を愛護保有するとともに学校増改築並びに学校施設に貢献すること
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	学校林の保育管理

【事務事業の推移】

(単位: 千円)

	項目	単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	植栽面積(地積)	ha	40	40
	成果指標	事業費	千円	436	191
		管理学校林数	箇所	27	27
投下コスト	項目	総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費(人件費を除く)(A)		436	191	
	財源内訳	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源	436	191	
	人件費(B)	—	3,927	4,036	
		職員数	—	0.5	
		職員平均人件費	—	7,853	8,071
	(A) + (B) 投下コスト	—	4,363	4,227	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—	108,586	105,202	
		—			
	市民1人当たりのコスト(円)	—	137	135	

【事務事業の今までの成果】

仙北市各学校にて保有している学校林について、これまで旧角館町のみに依頼していた学校林管理人を旧田沢湖・旧西木の各学校林に依頼・配置し、学校林の管理を強化した。今後も管理人の報告を元に、有効な学校林管理を行いたい。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	木材価格の低迷により資産的運用は厳しいが、里山としての活用を模索している。授業で間伐等行うなどの活用がみられる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	(特になし)

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
B	A	現状のまま継続（実施）	学校林は長期的な視野に立った事業 な為、次世代への教育資産を残す意味で 現状の維持管理は必要と考えるが、 効率・現時点の必要性よりB判定とした
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

本事業においては、台帳の整理及び、各学校林の管理人からの報告による育林状況により対応をする事業となっている。改善の方向性としては、各学校による授業での活用での必要性の向上、あるいは、農林課等への事務委託による効率化などが挙げられる。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B	学校林は長期的な視野に立った事業な為、次世代への教育資産を残す意味で現状の維持管理は必要と考えるが、コストや効率面での見直しが必要と考える。

一次評価診断図

